

市民のいのちと健康を守る視点は…？

民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049

8月2日、奥州市地域医療懇話会が開かれ、新医療センター建設計画について議論されました。その内容についてお知らせします。

同懇話会は、医療・介護関係者らで構成され、専門的見地から意見を聴取。施策の参考としていく性格を持ちます。

以前、お知らせした新医療センター検討懇話会で示された計画案をもとに説明があり、委員からは、経営面や医師確保、市民負担の増大などから建設そのものを否定する意見が多数を占めました。

全国的に中小病院は経営難：人口減少で患者は増えない

ある委員は、全国で中小病院の経営が厳しく、規模を縮小している状況の中で、病床数



80床。患者数も減る中で赤字からの脱却は難しい、と指摘。市からの繰入金や建設にあたっての市民負担の増大など、財政負担が増えることへの懸念も示されました。

市民のいのちと健康を守るための財政拠出を考えていく 市長

それに対して市長は、ふるさと寄附金の増額など具体例をあげながら「地域医療を守るための市の財政について広い視点で見ていく必要がある。医療費をどこまで使えるか考えていきたい」と述べました。

建設場所に異論噴出

渋滞緩和のための道路整備にどのくらいかかるのか、車移動がほとんどだから公共交通機能を考えたい場所でもなくともよい、医師招へいを考えて新幹線駅の近くに、など建設場所への異論が噴出しました。



市民の意思を軽視？

令和3年、5つの市立医療施設を統合する案が提示された時に各地域から「統合に反対」の署名が集められ、その声を重んじた当時の小沢市長が「存続」という結論に至りました。今回の資料の中に、その経緯を明記したところ、ある委員は、「統合しないことを市民に責任転嫁している。当局は反対意見しか聞いていない。文言を削除すべきだ。署名だって1万筆なんて集まっていけないでしょう」と発言。

別の委員は、「病院を建てるか、建てないかわれれば市民は建ててくれ、と言うに決まっている。わからないんだから」と発言しました。

新医療センター建設への市長の熱意が伝わらない！

懇話会において、委員からの質問に対して市長が回答したのは、財政の考え方と新医療センターの新たな経済効果についてのみでした。委員からも「経営側の考え、理念が全く伝わってこない」という指摘がありました。



映画「GAMA月桃の花」8月18日（日）

前沢ふれあいセンター

1回目 10:30 上映 ※開場 10:00

2回目 14:00 上映 ※開場 13:30

《入場料》

一般 1000円 小・中・高校生は無料

主催：2024 平和のつどい実行委員会

平和を考える8月…
ぜひ映画上映会へ

市長は、担当者任せにせず、市長公約でもある新医療センター建設について、その役割や意義を力強く表明することが必要だったのではないだろうか。

